



山中 研究者には2つの要素が必要です。1つがアイデアで、これは若いほどたくさん出てきます。もう1つは経験です。経験は逆に、歳とともに上がっていきます。研究者は経験でカバーできる仕事でもあるので、若い人が入ってきて、いつまでたっても順番が回ってこない。社会構造や考え方を大幅に変えないといけない。そのような意味では大変だと、日々思っています。

畑 京都生協も若い職員に主要なポストを任せてこれから担ってもらいたいのですが、なかなかそうならないのが課題です。

iPS細胞研究所では研究室に仕切りを設けずに、オープンラボ方式で複数の研究者グループが互いに活発なコミュニケーションをとっていると聞きました。チームにとって必要なもの、チームのトップとして意識されていることはありますか。

山中 共通のビジョンを持つことが一番大切ではないかと思っています。私たちは「iPS細胞という技術を、いかに患者さんに届けるか」というビジョンがはっきりしているので、共有化はしやすい。しかし実現に20年ぐらいかかる上に失敗も多く、モチベーションを維持するのが難しいことと、雇用が安定しないことが一番大変だと感じています。

畑 自分のやりたいことと組織が目指すものがかみ合わず、リタイアする職員もいます。これについてはどのように思われますか。

山中 研究にはさまざまなステップがあり、研究者にもそれぞれ向き・不向きがあります。指導者がそれを見極めて、できるだけ合ったテーマを与えることがポイントです。iPS細胞を作る研究も、最初に任せた研究者はあまりにリスクが大きすぎて、ひるんでしまった。次に任せた人は「知らぬが仏」だったのか、リスクをリスクとせず、一気に仕事が進みました。適材適所にできたら一番いいと思います。

畑 京都生協では職員ビジョンに「頼もしき隣人たらん※1」を掲げ、これに日々近づくための行動を「クレド※2」として、それぞれの職場のミーティングで交流しています。モチベーションを維持していけるように、仕事の目的を常に意識できるようにしています。

※1 「頼もしき隣人たらん」：地域にとっても、職場の仲間同士でも「頼もしい存在」であり続けられるようにと、初代理事長・能勢克男が呼びかけた言葉

※2 「クレド」：約束、志、信条などをラテン語で表した言葉

それぞれの未来展望、到達点とこれからの目標

山中 (司会より、目標達成に向けての現在到達点を問われて) 富士登山に例えますと、今ちょうど5合目ぐらいかと思います。頂上を目指して5合目まで行くためには、まず体力や道具の準備が必要です。いきなり行っても絶対に成功しません。iPS細胞についても約10年間、前臨床研究で多くの先生が一生懸命準備して、ようやく5合目までできました。ただ、富士山は5合目まで行くとすぐそこに頂上が見えていて、意外と簡単そうに思えるのですが、実際に登ってみると大変なのです。まさに、私たちも臨床試験に差し掛かって、ゴールははっきり見えているのですが、近づけば近づくほど大変になっていくだろうと思っています。一番先頭を走っているのが、高橋政代先生。網膜の病気の加齢黄斑変性の臨床研究で、4月の記者会見では「ようやく7合目まで来ました」とおっしゃっていました。今は高橋先生を目標に、一生懸命ついて行っています。私たちも多くの先生の後押しをしていきたいと思っています。

畑 私たち京都生協には頂上がなく、人々の暮らしがある限り、登山は永遠に続いていくと思います。地球・世界規模の大きな課題の解決に向けて、SDGs、持続可能な社会を実現する取り組みを進めます。地球温暖化につながるCO₂の排出削減や、海洋汚染に

懇談会は引き締まった空気の中始まりましたが、山中所長のユーモアあふれる話題で時折笑いも起こる和やかな雰囲気。「真冬に娘がカギを忘れて家に入れなかったとき、生協の保冷カバーの中に入って妻が帰ってくるまで待っていた。生協は娘にとっても命の恩人」という驚きのエピソードも飛び出しました。

つながるプラスチックごみの削減、核兵器のない社会の実現。日々安心して健やかで穏やかに暮らせる社会を目指します。

もう1つは、この京都の地で事業を通じて、一人ひとりの普段の暮らしを支え、子どもや孫の世代にまで幸せが繋がる未来を創造することを目指したいと思っています。

本日は、同じ京都の地で、iPS細胞研究所と京都生協という異なる組織が、未来への希望をもって進んでいることを、改めて感じることができました。大変貴重な機会をいただきありがとうございました。

山中 今日はこのような機会をいただきまして、心よ



り御礼申し上げます。異分野の方々と話をさせていただいて、非常に楽しい時間を過ごすことができました。また、生協で取り組んでおられる活動から組織運営のことまで、大きな学びがありました。京都という伝統ある都市で、世界の最先端の研究を何とか患者さんに届けるために、日々たくさんの人間が頑張っております。ぜひ、京都の方々からも大きな声援をいただきますと、私たちもモチベーションの維持につながります。これからもよろしくお願い申し上げます。

今回の申込者から出された山中所長への質問



高校生です。たくさんの勉強に追われて忙しいのですが、高校時代の過ごし方で、山中先生が大切だと思うことは何ですか？

もちろん勉強も大切。勉強も含めて、私は高校生の時にいろいろなクラブや自治会、生徒会活動、バンドも組んでいました。学園祭でコンサートもやりました。大半は失敗に終わりましたが、今となっては宝のようです。あれがなかったら、ずいぶん違う人生になっていたと思います。大人になって40歳、50歳で失敗していると困ったことになりましたが、中学生、高校生の時の失敗は、宝のような経験だと思います。ぜひ、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。



「iPS細胞研究基金」ご寄付のお願い

iPS細胞を用いた新しい医療を開発し、難病やケガで苦しむ患者さんにお届けするには、皆さまからのご支援が必要不可欠です。iPS細胞研究にあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付の用途

- ・優秀な研究者や研究支援者の長期雇用
- ・医療応用に向けた研究費としての支出
- ・安定的な研究活動の支援、iPS細胞研究の情報発信・普及活動
- ・iPS細胞技術の特許確保と維持

ご寄付の方法

- ・京都大学基金Webサイトから

京都大学基金の申し込みフォームからお申し込みください。
※銀行振込(ATM・インターネットバンキング)・クレジットカード決済でお手続きいただけます。

- ・払込取扱票(振込用紙)で

資料請求先
京都大学iPS細胞研究基金事務局

0120-80-8748 8:30~17:00(土日祝休)

払込取扱票をご希望の旨と、ご氏名・ご住所・お電話番号をお伝えください。数日で払込取扱票が届きます。
※郵便局・銀行の窓口でお手続きいただけます。